

# 雑誌『國教』と九州真宗

【編集復刻版】全3巻＋別冊1

- 編・解題 中西直樹（龍谷大学文学部教授）
- 推 薦 赤松徹眞（龍谷大学学長・本願寺史料研究所所長）
- 体 裁 B5判・上製・総1、274頁
- 別 冊 別冊のみ分売可 別冊1、000円＋税 ISBN978-4-8350-7886-1

●揃定価 本体75,000円＋税 ISBN978-4-8350-7881-6  
 ●刊 行 2016年7月

明治二十四年十月十日發行（毎月一回）

第二國教

目次

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

●第二國教の編輯者 中西直樹

明治二十四年七月十五日發行  
 中西牛郎主筆

# 九州佛教軍

號壹第

發行所 九州佛教俱樂部

不二出版

〒113-0033  
 東京都文京区向丘1-2-12  
 電話03-3812-4433  
 フアクシ03-3812-4464  
 振替001600294084

2016/6

●表示価格はすべて税別。

九州から日本全国へ

明治20年代、日本の思想界に大きな影響を与えた重要資料を復刻！

# 雑誌『國教』と九州真宗

【編集復刻版】全3巻＋別冊1

●編・解題 中西直樹（龍谷大学文学部教授）

●推 薦 赤松徹眞（龍谷大学学長・本願寺史料研究所所長）

●体 裁 B5判・上製 総1、274頁

●揃定価 本体75,000円＋税

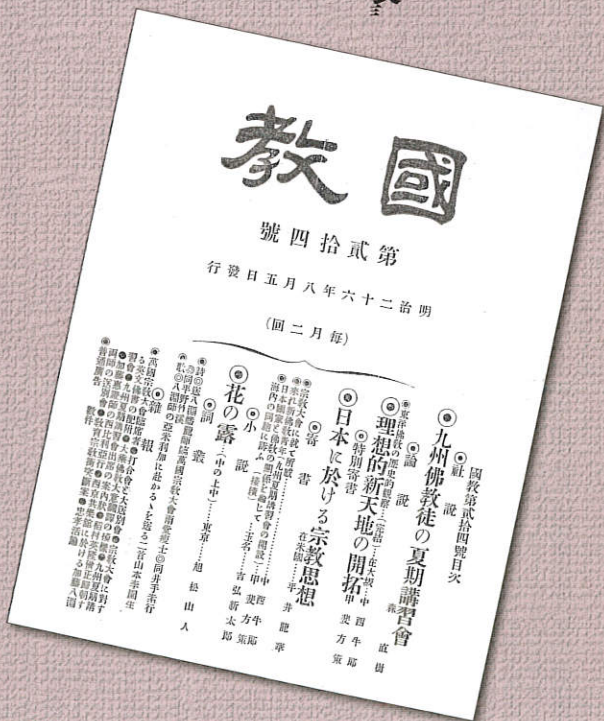
●刊 行 2016年7月

明治二十年代初頭、日本仏教界では、キリスト教に對抗して「通仏教」を標榜して結束する動きが高まった。その拠点となったのが、九州熊本であった。熊本では、真宗僧侶を中心に「九州仏教団」が結成され、九州各地の各宗派の僧侶・在家信者が数多く参加した。その事業は、雑誌『國教』の創刊をはじめ、夏期講習会の開催、九州仏教団の中心的人物である八淵蟠龍のシカゴ万国宗教会議への派遣など、幅広い領域に及んだ。

また『國教』の主筆であり、文学寮（現在の龍谷大学の前身校の一つ）の教頭であった中西牛郎を中心として、京都遊学中の九州人の親睦団体として「九州仏教俱樂部」も結成されている。

その活動は、国粹主義の台頭期には中央言論界でも注目を浴びたものの、キリスト教の教勢が衰退すると活動は停滞し、日清戦争前にその役目を終えた。しかし、当時の仏教の革新運動の一翼を担い、日本の思想界にも大きな影響を与えた点で注目値する。

この資料集は、九州仏教団の機関誌としての性格を有する『國教』をはじめ、九州仏教俱樂部の機関誌『九州仏教軍』をあわせて復刻するものである。



不二出版

『雜誌』『國教』と九州真宗 推薦文

赤松徹眞 (龍谷大学学長・本願寺史料研究所所長)

このたび、一八九〇(明治二三)年九月に熊本市で創刊された雑誌『國教』が、復刻されることになった。この雑誌は、地元真宗僧侶である八洲蟠龍が編集・経営の責任者となり、当時の新仏教の旗手の一人である中西牛郎らが主筆を担当した。彼らは熊本を中心として「九州仏教団」を結成し、仏教興隆を目指して、さまざまな活動を展開していた。また雑誌『國教』は、地元で活躍する人々による地方誌としての性格にとどまらず、東京・京都からも仏教界・教育界・ジャーナリズム界などで知られた人物が数多く寄稿し、全国的なネットワークを形成していた。

雑誌創刊の前年の一八八九年二月に大日本帝国憲法が公布され、翌年七月に第一回衆議院議員総選挙が実施された。さらに同九〇年一〇月三〇日には教育勅語が公布され、国家の法制的思想的骨格が定まりつつあった。こうしたなかで、国粹主義、日本主義、平民主義など、さまざまな思潮が高調し、雑誌・新聞などでの言論活動が活発化していた。そうした動向は東京にとどまらず地方にも波及し、仏教振興の志をもった青年知識人の活動をも促したのである。

雑誌『國教』には、教育と宗教の衝突、キリスト教及び欧米社会、万国宗教大会、仏教改革論など、多岐にわたる社会動向に関わる論説が掲載されており、本雑誌の復刻は、明治二〇年代の多様な仏教の動向を研究するうえで欠かせない史料となる。その意味で、本復刻の意義はさきわめて大きいと考えるものである。

主要執筆者一覧

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 秋山銀二郎 | 加藤 咄堂 | 西 保太郎 |
| 蘆津 実全 | 菊池 寛容 | 服部宇之吉 |
| 生田 得能 | 菊池 三舟 | 平井 金三 |
| 池松 豊記 | 草野 本誓 | 古河 老川 |
| 井出 三郎 | 島地 黙雷 | 堀内 静宇 |
| 井上 円了 | 釋 宗演  | 前田 慧雲 |
| 井上 昆江 | 土宜 法龍 | 松山松太郎 |
| 井上哲次郎 | 外山 義文 | 森 直樹  |
| 甲斐 方策 | 中西 牛郎 | 八洲 蟠龍 |
| 片桐 白川 | 中西元治郎 |       |

國教第壹號目次

- 祝詞 南條文雄君、津田静一君、加藤熊一郎君、藤岡法真君、服部宇之吉君、中村六藏君
- 社説 國教雜誌發行の趣旨
- 九州佛敎團に就て……中西牛郎
- 苦痛の原由……藤島了徳
- 疑問一則……戸城連七郎
- 品位の説……静宇居士
- 應用心理学と新心理学……服部宇之吉
- 達摩波陀論……スマンガラ大僧正
- 自然の理法を論ず……メルケルズ氏
- 依願主義を放棄すべし……吉村眞治
- 寄書 那蘇敏は之を排斥せざるべからず佛敎は之を改良せざるべからず……秋山銀二郎
- 史傳 石川台嶺師の傳
- 雜報 古代歐米佛敎の神智學會○青年佛敎徒の海外留學○西京の佛敎○小本願寺○九州佛敎團○熊本○二大學校○佛敎徒の大會議○本願寺法王の授爵○眞安心取調○智恵院の臨時總會○宜しく將來を誓ひべし○其心底の盛衰に注意すべし○阿院議員の宗教
- 其他○特別社告○普通社告○廣告等あり

國教雜誌社規約

一佛敎擴張の初歩として雜誌社を組織し毎月一回雜誌を發行し正社員及び賛成員に頒布すべし。本誌は宗派に偏せず敎會に據せず普く宗教界に獨立して佛敎の眞理を開闢し佛徒の積弊を洗滌して之が改良を圖る。本誌は諸宗教の批評及び敎法界に現出する問題を討論し而して其敎法と關係あるの点に至つては文學・理學・經濟・衛生・教育等の論議雜報をも掲載すべし。本社員を分つて正社員賛成員の二種とし毎年一圓以上の維持金を納むる者を正社員とし單に雜誌を購讀し又は拾錢以上の義捐金を納むる者は正社員とす。本社に正社員たりんと欲するものは住所姓名を記し維持金を添へ本社に申込みべし。本社は之に對し諸盟狀及び其都度發行の雜誌を交付すべし。普通の購讀者は規定の金額を添へ住所姓名を記し本社に申込みべし。但雜誌を購讀せしむるに維持金を授かるものは其旨通知すべし。維持金義捐金の金高及び其姓名は諸取の願書により雜誌に掲載すべし。維持金義捐金は銀行又は資産ある名望家に托して之を保管し貯蓄一千圓に達するまでは敎法必要の翻譯書等を出版し割引若くは無代價を以て正社員に頒布すべし。本誌代價一冊六錢六冊三錢十二冊前金六十錢(但熊本市を除く)の外毎號郵税五錢を要す。廣告料は五號活字廿五字詰にして一行五錢宛。總て本誌代價は前金にあらずれば發送せしむ。但郵代用は一割増の事。

國教第叁拾壹號

凱旋紀念

萬國宗教大會凱旋者 八洲蟠龍師の歡迎會

眞宗本派本願寺派熊本法住教社に屬する佛敎革新軍の猛將勇卒等が發起となり。九州の全嶋に散在せる革新軍と聯合し。玆に始めて一種無形の團體九州佛敎同盟會を組織し。萬國宗教大會に向つて代表者派遣の運動を試み。新鮮快活。全國革新軍艷羨の牌を熊本城頭に注がしめし。早や昨年春の事なりき。然るに今や一週年後の今春。其代表者の凱旋歸熊に遇ひ。熊城の人心爲に大會熱に浮かされ。九州の敎界爲に革新の風に靡き。熊本耶蘇敎の僧侶信徒爲に肩を縮め。派遣運動の佛界反對者も爲めに覺へず歡迎の聲を叫び。八洲の名噴々として響り。蟠龍の音響々として聞へ。其餘威の及ぶ所。田舎の老爺老嫗として八洲偶像崇拜の病に罹らしめ。熊本の噴火的人氣をして俄躍の狂言に仕組ましむ。嗚呼何ぞぞ盛なる哉。是れ畢竟四月五日。熊本城の東。託摩の原頭。本山河原に執行せられし。萬國宗教大會凱旋者八洲蟠龍師の歡迎會の盛況偉觀に固づかずんばあらず。吾人は彼れ八洲偉人の歡迎會を以て。近時九州佛界の花なりと信じ。全國革新軍前途の旭と認め。本誌の冒頭殊更に『凱旋紀念』の欄を設け。聊か其盛況の眞を寫し。

◎収録一覧(網掛けは未収録)

通号	雜誌名	号数	発行年月日	通号	雜誌名	号数	発行年月日
1	國教	第1号	明治23年9月25日	22	國教	第14号	明治25年8月30日
2	國教	第2号	明治23年10月25日	23	國教	第15号	明治25年9月20日
3	國教	第3号	明治23年11月25日	24	國教	第16号	明治25年10月27日
4	國教	第4号	明治23年12月25日	25	國教	第17号	明治25年11月20日
5	國教	第5号	明治24年1月25日	26	國教	第18号	明治25年12月20日
6	國教	第6号	明治24年2月25日	27	國教	第19号	明治26年1月25日
7	國教	第7号	明治24年4月25日	28	國教	第20号	明治26年3月30日
8	國教	第8号	明治24年6月25日	29	國教	第21号	明治26年4月30日
9	第二國教	第1号	明治24年10月10日	30	國教	第22号	明治26年5月30日
10	第二國教	第2号	明治24年11月20日	31	國教	第23号	明治26年6月30日
11	第二國教	第3号	明治24年12月17日	32	國教	第24号	明治26年8月5日
12	第二國教	第4号	明治24年12月30日	33	國教	第25号	明治26年8月30日
13	第二國教	第5号	未見	34	國教	第26号	明治26年9月30日
14	第二國教	第6号	明治25年2月5日	35	國教	第27号	明治26年10月30日
15	國教	第7号	明治25年2月29日	36	國教	第28号	明治26年12月7日
16	國教	第8号	明治25年3月25日	37	國教	第29号	明治26年12月30日
17	國教	第9、12号	未見	38	國教	第30号	明治27年2月28日
20	國教	第13号	明治25年8月15日	39	九州仏敎軍	第31号	明治27年7月15日

社説

至誠なき事業は繼續せず

島地 黙雷

左の一編を社友島地黙雷氏の寄稿に係るものなるが、願する本社に  
見れば、余りあるのあれ、願せて本誌の社説に換ゆ  
其起るや、颯然として来る。恰も烈風雷雨の万木を鳴  
りし黒雲を驅り、破竹の勢當るべからざるが如く。衆  
月瞭然拍手其快を稱せざるなし。其滅するや、寂然  
聲なく火の消へたるか。如く煙の散せしか如く。人  
一言の是に及ぶものあるなし。忽ち起りて、倏ち滅し  
興敗常なく朝夕を保たざる者。是實に近時我佛敎社  
會に於る有志者創立の事業上に發現せる形跡なり。  
噫、是れ何の所以ぞや。予輩實に其現象の奇異なるを  
怪み。其由来する所を思索するに、是必せ偶然の事に

雑録

中西牛郎氏對德富猪一郎氏

加藤 咄堂

山水偉人を生むるか偉人山水に生るか。蘇山筑水何  
る偉人を出すの多きや。維新以前に於ては氣宇豁達  
宇内を睥睨せるの横井小楠翁あり。淋漓たる鮮血國  
に殉せる林川上の輩あり。當代に於ては甚  
哲學を組成せる中村六藏氏あり。博學多才基  
チャピオンたる横井時雄氏あり。濃厚篤實  
唱首たるの中西牛郎氏あり。流麗の文輕敏  
て顯はれたる德富猪一郎氏あり  
吾人は氏等か性情を悉さず。亦之れを悉すの  
を知る。然れども唯た近者相對峙せるの觀

文學寮の大紛亂

宏壯偉觀なる新校舎の落成式を告げしより。間もなく鎮火山  
の噴火せしが如くに轟然爆發したり。積年鬱結したる千体万  
狀の紛亂分子は。四月下旬同寮教員濤源平氏の諭旨免職に依  
りて忽然破裂したり。此の導火線の鳴り響くや否や。忽ちに  
して豫科堂年生の寮長交迭辭職勸告の過激的先登運動となり  
。濤教員の復職となり。先登運動者主魁九名の退校處分とな  
り。本山會衆の仲裁となり。教職員の調和懇親會となり。藤  
嶋寮長の周章狼狽となり。日野監事の熱淚滂沱となり。本科  
三年生の滑稽的須磨旅行となり。以て一層紛亂の烽火を滿天  
に輝かすに至れり。是に於て乎電光閃々として雷鳴轟々。驟

評論

死刑廢止の請願

被選挙權の請願に於る。僱傭別置の請願に於る。酒  
々たる七万の僱傭は。只々一身のこののみを計り  
て更に一國の公益を計りんとするものあり。此  
際、當りて獨り眇々の身を以て。社會一般の公益を  
圖りんとするは。優婆塞大内青齋氏あり。氏は貴衆  
兩院に向つて。死刑廢止の請願をききんとて。浴衣  
各宗管長の同意を求めたり。其趣旨の梗概を擧  
れば。  
一凡そ刑罰は人の心魂に及ばず可しを然るに死刑

龍谷大学アジア仏敎文化研究叢書1  
龍谷大学アジア仏敎文化研究センター  
中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣 編  
資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流

一九三三年三月、日本は国際連盟を脱退し国際的な孤立状  
態に陥つた。そのような中、日本仏教の關係者たちは欧米の  
仏教者・研究者と緊密に連絡を図り、アジア諸国の仏教勢力  
との協力提携を目指した。その事業は基本的に国策に順応す  
る方向性をもっていたことは否定できないが、広範囲かつ大  
規模に及ぶこれらの事業には、様々な立場の人物が関わり、  
その活動も多様な側面を有していた。いま、日本の民間レ  
ベルでの国際交流のあり方を問い、これらの事業の検証が求め  
られていると言えよう。本資料集は、そのための必要不可欠  
な文献を収録したものである。  
推薦 赤松徹眞

第I期  
汎太平洋仏教青年会大会關係資料  
全2巻  
体裁 ⅡB5判・上製・総1、008頁  
定価 Ⅱ本体48、000円+税  
第II期  
『海外仏敎事情』(一九三四〜四四年、国際仏敎協会発行)  
全3巻  
刊行 Ⅱ2017年3月予定  
第III期  
『国際仏敎通報』『日華仏教』『支那宗敎事情』『東亞宗敎事情』  
全3巻  
刊行 Ⅱ2018年3月予定

中西直樹編・解説 仏敎海外開敎史資料集成

本資料集は、ハワイ・北米・南米における膨大な仏敎開敎  
關係の記録であり、仏敎敎団の海外の現状と歴史を検討する  
ための、必要不可欠な資料集である。  
推薦 大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻  
体裁 ⅡA5判・上製・総3、642頁  
定価 Ⅱ本体120、000円+税  
〈北米編〉全6巻  
体裁 ⅡA5判・上製・総3、372頁  
定価 Ⅱ本体120、000円+税  
〈南米編〉全3巻  
体裁 ⅡB5判・A5判・上製・総1、526頁  
定価 Ⅱ本体60、000円+税

中西直樹著 仏敎海外開敎史の研究

本書は『仏敎海外開敎史資料集成』(ハワイ編・北米編・南  
米編)に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまとめたも  
のである。  
体裁 ⅡA5判・並製・120頁  
定価 Ⅱ本体2、000円+税

菊池正治・高石史人・中西直樹編・解説 戦前期仏敎社会事業資料集成

全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、仏敎が社会事業に果たした  
役割は大きく、各敎団による事業、僧侶ら仏敎者が設立した  
施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集  
成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹  
洞宗、日蓮宗、真言宗の各敎団關係機関の発行した社会事業  
の要覽・便覽・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期仏  
敎社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も含め  
て検証し、仏敎史・仏敎福祉、さらに近代史・社会福祉研究  
のための基礎資料として提供する。  
推薦 長谷川匡俊・室田保夫

中西直樹・高石史人・菊池正治著 戦前期仏敎社会事業の研究

本書は『戦前期仏敎社会事業資料集成』に収録した解題と  
収録内容を一冊にまとめたものである。  
体裁 ⅡA5判・上製・168頁  
定価 Ⅱ本体2、500円+税

関連図書